

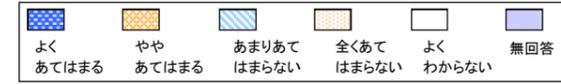
令和5年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立原中学校

様式 4

		アンケートの結果		上段：生徒 下段：保護者等 グラフ：教職員					
		A	B	C	D	よく分らない	無答		
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	22	57	15	1	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	48	45	4	0	2	0
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	45	48	5	1	1	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	26	50	15	1	8	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全(確保・対策)に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	45	47	3	0	5	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	24	55	16	2	3	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	31	51	14	1	3	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	25	37	30	6	3	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	49	44	6	0	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	40	50	8	1	1	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	42	51	3	0	3	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	49	46	3	0	2	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	21	37	27	5	9	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	65	27	6	1	1	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	42	47	6	1	4	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	30	35	8	1	27	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	33	43	6	3	15	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	46	42	5	0	6	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	22	30	31	11	5	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	27	49	8	1	15	0
各学校の特色ある教育	21	原中学びスタイルの推進	学校は、原中生の目指す姿の実現に向けて、生徒が「わかる楽しさ」「できる楽しさ」「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を推進している。	20	45	24	4	8	0
	22	キャリア教育の充実	学校は、みらいラボや勤労留学、職業講話、マナー講座などを通して、望ましい勤労観や職業観を育てるための指導を充実させている。	33	50	8	1	8	0
	23	社会貢献活動への参加	生徒は、地域清掃や地域イベントなどのボランティア活動に参加し、地域や社会のための活動に取り組んでいる。	25	23	36	13	3	0
	24	充実した学校生活	生徒は、委員会活動や部活動、学年・学級活動に主体的に参加し、自分らしさを発揮して生活を送っている。	36	42	14	2	5	0
	25	食育の推進	学校は、生徒の健康な食生活と食習慣を確立するために、学校全体で食育と給食指導に努めている。	56	31	6	1	6	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

約20%の生徒が教育目標を理解できていないが、来年度の生徒総会で決定される「原中生徒会目標」の定着に期待する。

90%以上の生徒・保護者が明るく楽しい学校生活を過ごしていると感じている。不登校生徒の改善を図ることが課題である。

下校時の歩き方に課題はあるが、三者とも挨拶やきまりを守るなどの基本的生活習慣がしっかり身に付いていると感じている。

教職員と生徒の意識の差がうかがえる。「寝めるときは大いに寝め、叱るときは本気で叱る」姿勢で、生徒理解を深めたい。

ヘルメットを着用した避難訓練を実施し、三者とも防災教育を高く評価している。来年度は避難所開設訓練を実施する。

18%（昨年度20%）の生徒が授業が分からない・つまらないと感じている。授業力向上に努め、全ての生徒が分かる授業を目指す。

15%（昨年度17%）の生徒が不十分と感じている。全ての生徒が満足できる、一人一人の理解の程度に応じた指導の充実を図る。

約40%の生徒は授業以外に勉強をしていないことが分かる。タブレットPCの活用など、家庭での学習の習慣化を促す工夫をする。

三者ともICT機器の活用は満足している。さらにデジタルコンテンツやGoogle Classroomの活用を推進し、生徒のニーズに応える。

教職員と生徒は学校図書館の活用は満足している。学校図書館を活用した授業の様子を、保護者や地域に広く発信していく。

教職員と生徒は人権教育が充実していると感じている。講演会や体験的授業を実践し、人権感覚を育てる教育活動の充実を図る。

三者とも道徳教育が充実していると感じている。「考え、議論する道徳」の授業の様子を、保護者や地域に広く発信していく。

教職員と生徒・保護者の意識の差が大きい。生徒が気軽に相談できる環境づくりと、一人一人の居場所づくりが必要である。

三者とも90%以上満足している。さらに達成感と充実感のある教育活動を推進して、望ましい人間関係づくりを推進する。

三者とも自治的な活動に満足している。全ての生徒が「気づき・考え・実行する」、自治的・自発的な活動に発展させていく。

27%の生徒が「よく分からない」と答えている。朝礼や学活等で「学校便り・学年便り」を活用する機会を設定する必要がある。

約25%の生徒が満足していない。日頃からの声掛けを大事にして、生徒が自分の思いを安心して話せる環境づくりに心掛ける。

学校行事の保護者参加は多いが、土曜授業日と学校公開週間では参加が少ない。行事とリンクし、参加者を増やす工夫をしたい。

地域の行事に参加している生徒は約半数である。地域での生徒の活躍を、広く保護者に発信する必要がある。

教職員の意識と、生徒・保護者の意識に差がある。保護者や地域からの意見や要望等には丁寧に対応していきたい。

10月からスタートした「原中学びスタイル」は、まだ定着していない。毎時間の授業での実践で、目指す生徒像を実現したい。

みらいラボと勤労留学は3学期に実施する。キャリア教育を推進し、夢のある生徒を育てるとともに保護者への発信を強化する。

約半数の生徒がボランティアに意欲的に参加している。残り半分の生徒がボランティアを経験するきっかけ作りが課題である。

16%の生徒が「自分らしさ」を発揮できていないと感じている。一人一人の生徒が活躍できる学級・学校づくりを目指す。

給食の残量はほとんど無く、生徒の食への関心の高さがうかがえる。さらに食育の推進を図り、健康な食習慣の確立を目指す。